

事務事業評価資料

施策名	里地・里山・里海等の自然再生の推進		所管部局課名	農政環境部環境創造局自然環境課					
事業名	上山高原エコミュージアムの推進		担当者電話番号	自然保護係 3328					
事業目的	イワシなど貴重な野生生物の生息する上山高原を、県民の共有財産として次代へ継承する幅広い県民の「交流・参画・協働」により、持続的な自然環境の保全を図りながら地域振興に寄与する新しい環境保全・利用の拠点として「上山高原エコミュージアム」を推進する								
事業内容	ススキ草原復元等の自然再生、NPO法人上山高原エコミュージアムの運営支援、体験プログラムの実施				事業開始年度	平成13年度			
事業に要するコスト	区分	平成24年度決算額		平成25年度当初予算額		平成26年度当初予算額			
	事業費	(8,471 千円) 12,163 千円		(6,897 千円) 9,660 千円		(6,411 千円) 8,776 千円			
	人件費	2,402 千円	従事人員 0.3人	2,369 千円	従事人員 0.3人	2,374 千円	従事人員 0.3人		
	総コスト(+)	14,565 千円	従事人員 0.3人	12,029 千円	従事人員 0.3人	11,150 千円	従事人員 0.3人		
事業の目標	プログラムの参加者の確保			[目標設定理由] 上山高原の自然や、自然と共生した地域の暮らしを学び体験するプログラムの参加者を確保することで、本事業の目的である持続的な自然環境保全や地域振興に資するため(前年並に設定)					
	自然再生面積の拡大			[目標設定理由] 上山高原の自然再生の進捗を具体的な数値で把握するため(上山高原エコミュージアム基本計画に基づくもの)					
事業目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		24年度実績	25年度見込み	26年度目標	達成率(%)		
		目標値	年度				H24	H25	H26(目標)
	プログラム参加者数	1,000人	毎年	1,215人 (12 千円)	1,000人 (12 千円)	1,000人 (11 千円)	100%	100%	100%
ススキ草原復元面積及び広葉樹林復元面積	88ha	H30	52.51ha (277 千円)	54.51ha (221 千円)	56.51ha (197 千円)	59.7%	61.9%	64.2%	
評価結果	必要性	・本事業は、県が策定した「上山高原エコミュージアム」基本計画に基づき、NPO法人を主体としてNPO、地域住民、行政の協働により自然観察会等のプログラムの開催、自然復元作業、モクソウを実施している。 ・今後ともエコミュージアムの手法を活用し、イワシ等が生息するなど県下でも有数の豊かな生態系を持つ上山高原を県民共有の財産として後世に残すとともに、保全・利用のツールとして県下に取組を広めていくために、継続した取組が必要である。							
	有効性	・プログラムの参加者は目標値は達成を達成しており、都市部からの参加者も相当数あり県民の交流・参画は図られている。今後、プログラム内容の見直し、充実を図りさらなる参加者の増加を促進する。 ・自然再生事業についてもほぼ計画どおりに進捗しており、効果が発現している。							
	効率性	・地域を一番よく知る地元住民が中心となったNPO法人が運営主体となって事業を推進することにより、エコミュージアムの主目的である自然環境の保全と地域振興、県民の交流が効率的に図られている。							
	民間・市町との役割分担	・NPO法人：自然保全、プログラムの実施など諸活動の担い手 ・町：エコミュージアムの関連施設の管理運営を支援 ・県：NPO法人の運営体制の基盤を支える							
	受益と負担の適正化	・NPO法人の運営、プログラムの実施にあたっては、県と地元で費用を負担している。							
実施方針	方向性	新規 廃止	拡充 縮小	(継続) 統合	凍結(休止)	実施手法の見直し 延長	その他 終期設定		
	実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	PFI	負担割合変更	事務改善	その他	
説明	・兵庫県の生物多様性保全の先導的な取組として、引き続き自然再生を進めていく。また、主体となる地元組織である「NPO法人上山高原エコミュージアム」は平成18年度の本格的な事業開始以来、様々な取組を進め事業収益を高める努力をしている。県としては、NPO法人が自立した財政基盤を得るまでの間、「上山高原エコミュージアム」の推進組織として財政支援を行う。								